

Citation: Jin X, Ruiz Beguerie J, Sze DMY, Chan GCF. Ganoderma lucidum (Reishi mushroom) for cancer treatment. *Cochrane Database of Systematic Reviews* 2012, Issue 6. Art. No.: CD007731. DOI: 10.1002/14651858.CD007731.pub2.

CRG名: Cochrane Gynaecological Cancer Group

[最新版\(英語版\)はこちら](#)

英語版最終改訂年月: 14 MAY 2012

Clib issue No.; N/U: 2012 Issue 6; N

アブストラクト

背景: Ganoderma lucidumはその免疫系への補助効果のため、アジアの医師および自然療法士が広く使用し推奨している自然薬品の一つである。実験研究および少数の前臨床試験において、G. lucidumに有望な抗癌および免疫変容性があることが示唆されている。代替療法としてのG. lucidum摂取が、癌患者において支持を得つつある。しかし、癌治療におけるG. lucidumの実際の利益を評価するために実施されたシステマティック・レビューはない。

目的: 癌患者での長期生存、腫瘍反応、宿主免疫機能および生活の質に対するG. lucidumの臨床的効果、ならびにその使用に関連した有害事象を評価すること。

検索戦略: 2011年10月、Cochrane Central Register of Controlled Trials (CENTRAL)、MEDLINE、EMBASE、NIH、AMED、CBM、CNKI、CMCC、VIP Information/Chinese Scientific Journals Databaseなどの広範囲のデータベースセットでランダム化比較試験(RCT)について検索した。検索した論文の参考文献のスキャン、International Journal of Medicinal Mushroomsのハンドサーチ、漢方療法専門家およびG. lucidum製造者との連絡などの他の方法も用いた。

選択基準: 本レビューへの選択基準は、病理学的に診断された癌患者を対象にG. lucidum剤の有効性を実薬またはプラセボと比較しているRCTの研究であった。癌の種類および病期は問わなかった。言語による制約は設けなかった。

データ収集と分析: 5件のRCTが選択基準を満たし本レビューに選択した。個々の試験の方法論的質を2名のレビューアが別々に評価した。共通の主要アウトカムは、世界保健機構 (WHO)基準によって評価した腫瘍反応、ナチュラルキラー(NK)細胞活性およびTリンパ球補助受容体サブセットなどの免疫機能パラメーター、Karnofskyスケールスコアで測定した生活の質であった。長期生存率を記録している試験はなかった。関連する有害事象の報告は1件の研究でみられた。主要な試験による利用可能データを統合しメタアナリシスを実施した。二値データには相対リスク(RR)、連続データには標準平均差(SMD)を用いて95%信頼区間(CI)と共に結果を提示した。

主な結果: 主要な研究の方法論的質は全般的に不十分で、多数の側面において結果の報告は不適切であった。主要な試験実施者からその後追加された情報を入手できなかった。メタアナリシスの結果では、化学/放射線治療併用のG. lucidum投与患者の方が化学/放射線治療単独患者に比べて奏効率が高い可能性がみられた(RR 1.50、95%CI 0.90~2.51、P = 0.02)。G. lucidum単独投与では、併用療法と同程度の寛解率を示さなかった。宿主免疫機能の指標についての結果では、G. lucidumによりCD3が3.91%(95%CI 1.92%~5.90%、P < 0.01)、CD4が3.05%(95%CI 1.00%~5.11%、P < 0.01)、CD8が2.02%(95%CI 0.21%~3.84%、P = 0.03)それぞれ同時に上昇したと示唆された。さらに、白血球、NK細胞活性およびCD4/CD8比はわずかに増加した。4件の研究では、G. lucidum群患者の方がコントロールに比べて生活の質が相対的に改善したと示された。1件の研究では、悪心および不眠症などの軽微な副作用が記録された。有意な血液学的毒性および肝臓毒性の報告はなかった。

レビューアの結論: 癌に対する第一選択療法としてG. lucidumの使用を正当化する十分なエビデンスは、本レビ

ユーで認められなかった。G. lucidumが癌での長期生存を延長するかどうか依然として不明である。しかし、G. lucidumの腫瘍反応増強および宿主免疫の刺激作用の可能性を考慮すると、既存の治療に対する代替補助剤として投与できる可能性がある。軽微な有害事象は少数のみであり、大半の参加者でG. lucidumの忍容性は概して良好であった。当該研究において大きな毒性は観察されなかった。G. lucidumの有害作用の報告はほとんどないが、その抽出物の使用については、特に費用-利益と患者の嗜好を十分考慮した後に慎重に判断すべきである。今後の研究では方法論的質の改善に重きを置き、G. lucidumの癌長期生存に対する効果に関するさらなる臨床研究が必要である。本レビューの更新は2年毎に実施する。

簡易な要約(Plain language summary)

癌治療に対するGanoderma lucidum(霊芝)

癌と診断される患者数は毎年増加している。ある集団では、特定の悪性疾患が死亡の主因となっている。癌の診断を受けた人は、疾患と戦い、その症状をコントロールし、放射線/化学療法の副作用と戦うためできることはすべてしたいと考えている。多くの人が補助医薬品や代替医薬品に目を向ける。G. lucidum抽出物は、この目的で中医学医師により広く用いられてきた薬剤である。癌治療での免疫系補助剤として通常推奨されている。G. lucidumの最新の実験研究および前臨床試験では、その抗腫瘍活性について有望な結果が示されている。しかし、その有効性のクリニカル・エビデンスは乏しく、患者に総体的情報を提示するためシステマティック・レビューが必要とされている。

本レビューでは5件の関連性のあるランダム化比較試験(RCT)を同定し選択した。計373名の被験者を解析した。個々の試験による利用可能データを統合しメタアナリシスを実施した。G. lucidum抽出物を抗癌療法レジメンにおいて投与された患者は、投与されなかった患者に比べて1.27倍化学療法または放射線治療に奏功する可能性があるという結果を認めた。しかし、単独投与の場合、有意な腫瘍縮小効果は示されなかった。さらに、G. lucidumがCD3、CD4、CD8リンパ球の割合を大幅に上昇させ宿主免疫機能を刺激した。しかし、腫瘍細胞に対する自己防御の指標と示唆されているNK細胞活性の上昇はわずかであった。G. lucidum群患者はコントロール群に比べて、投与後の生活の質が相対的に良好であると判明した。悪心および不眠症などのG. lucidum投与に関連した軽微な有害事象が少数例報告された。

本システマティック・レビューによる結果には限界がみられた。第一に、選択した研究の大半は小規模で、個々の試験の方法論的質に問題があった。第二に、個々の試験での参加者すべてが中国人集団からの参加であり、結果の頑健性および適用可能性が大幅に影響されていた。

(監訳 内藤 徹)

翻訳公開日:2012年10月31日

ご注意:この日本語訳は、臨床医、疫学研究者などによる翻訳のチェックを受けて公開していますが、訳語の間違いなどお気づきの点がございましたら、Minds事務局までご連絡ください。なお、コクラン・ライブラリは年12回改定版が発行されます。Mindsでは最新版の日本語訳を掲載するよう努めておりますが、編集作業に伴うタイム・ラグが生じている場合もあります。ご利用に際しては、最新版(英語版)の内容をご確認ください。